



きららです



私たち一人ひとりの行動が、未来につながる。

SDGs 未来都市 神奈川県

Kanagawa committed to SDGs

神奈川県立茅ヶ崎支援学校
支援連携グループ教育相談チーム発行
第3号 (2025.5月発行)



チップも応援しています

茅ヶ崎支援学校では、地域におけるセンター的機能を担っており「教育相談」「巡回相談・研修協力」「情報提供」等を行っています。「きららだより」はその一環で、特別支援教育に関する情報を発信していきます。日々の支援のお役立てになりましたら幸いです。

キャリア教育について②

前回は、何が好きか、やりたいことは何なのか、イメージを図式化していく、フローチャートの作成を、ご提案をしました。今回は、より具体的に目標の達成のためのステップをお示ししたいと思います。

今の気持ち

なりたい自分【 】⇒必要な資源(人)【 】(環境)【 】つけたい力【 】
⇒ファーストステップ【 】⇒評価(1～3か月)【 】⇒課題に対する支援【 】
⇒再度評価【 】⇒ファーストステップを達成⇒近い将来のイメージをもつ⇒セカンドステップ
へ⇒サードステップへ⇒**ゴール** 今の気持ちのところで、夢や希望について考え、ゴール(目標)を設定します。今の自分はどのような状態なのか、周囲と相談して知ります。夢を叶えるために必要な資源(人・環境)、つけたい力を考えます。夢を叶えるためには、まず何をするのか、ファーストステップを考えて行います。評価し、振り返りで課題を見つけて、再び支援を考えてトライし、達成したら近い将来の自分のイメージをもち、セカンドステップへと進んでいきます。このようなことを実際の学校生活や家庭生活等の中で、繰り返し行うことで、なりたい自分の実現(ゴール)に近づけていけるのではないのでしょうか。

参考図書「くらしに役立つソーシャルスキル」東洋館出版社 (教育相談コーディネーター 藤本)

構造化について②

前回は「見える化(視覚的構造化)」についてお話ししましたが、今回は「構造化」についてもう少し詳しく説明します。構造化には「場所の構造化」「時間の構造化」「活動の構造化」が含まれ、特別支援教育において子どもたちが安心して学べる環境を整え、自己管理能力を育むために重要です。視覚的な情報を用いることで理解を深める手助けにもなり、特に自閉症スペクトラム症のある子どもたちに効果的です。この方法はアメリカで開発された TEACCH プログラムに基づいています。

前回は「時間の構造化」と「活動の構造化」の一例をご紹介しましたので、今回は場所の構造化の一例をご紹介します。

限られた教室空間でも目的に応じて活動を分けたいことがある場合があります。そんな時に便利なグッズがパーテーションです。パーテーションを活用すると簡単に教室を小さなエリアに分けることができ、広い空間が落ち着かない子どもたちに安心感を提供し、集中力を高めることができます。教室に1つでもあると、柔軟に教室のレイアウトを変えることができるのでおすすめです。



構造化を行うことで、環境から発せられるメッセージに子どもたちが自ら注意を向け、受け止め、考え、行動に移す流れを安定して提供できます。同じ環境でも、人間から発せられるメッセージは毎回同じではないことを考えると、安定した要素が一つでも多くあることは、子どもだけでなく保護者や支援者にとっても安心感をもたらすことができると思います。よりよい子どもの生活環境を創っていくときに、よかったら、できることから「構造化」を取り入れてみてください。

(教育相談コーディネーター 於保)

きこえない・きこえにくい方への支援について

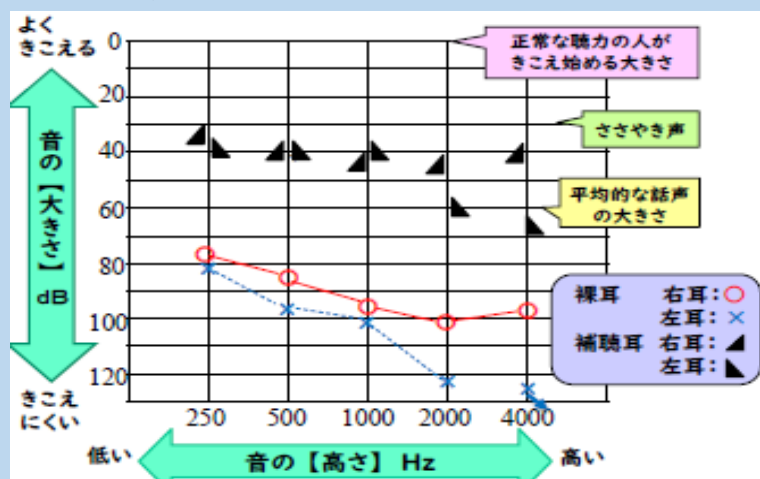
きこえない・きこえにくい方に対して、適切な支援を行うには、様々な情報を得ることが大切です。学校生活でどのように困っているか知り、必要な配慮や対応について考えましょう。

《情報を得ておけると良いこと》

- ・身体障害者手帳（聴覚障害）の有無
- ・補聴機器の種類
- ・補聴機器を外している時のきこえ
- ・補聴機器をつけている時のきこえ（左右差、高低音のきこえの違い等）
- ・どんな音がきこえているか
- ・どんな音、状況がきこえにくいのか
- ・補聴援助システムを使用しているか

《まずは、きこえの状態を知ろう》

きこえ方は、人それぞれ。その人が、どの高さの音がどのくらいの大きさならきこえるのかを示したグラフを『オーディオグラム』と言います。



軽度難聴や片耳難聴の人でも、本人のきこえに合わせた支援が必要です。本人のきこえの様子によって、どんな音がきこえていて、どんな音・状況がきこえにくいかを、本人・保護者と確認し支援者（教員）が共有していくことが支援のベースになります。

（言語聴覚士 佐藤）

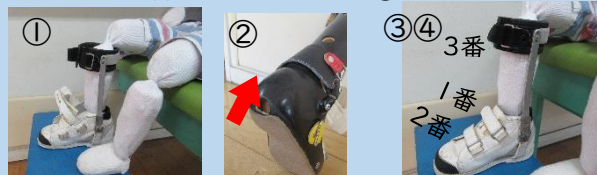
下肢装具の正しい履き方

今回は下肢装具の正しい履き方についてご説明します。

下肢装具には金属支柱付きタイプ、プラスチックタイプ、スニーカータイプなどがあります。（スニーカータイプの履き方は、昨年度発行きさらだより2号をご覧ください）ここでは、金属支柱付きタイプを例に説明します。

①装具を履く時は、椅子や車いすに座り、股関節・膝・足首を曲げます。曲がっている方が筋肉が緩み、履きやすくなります。②踵をぴったり装具に合わせます。踵部に穴が空いている場合は、指を入れて踵が奥まで入っているか確認します。③足首真ん中のベルトを一番先に留めます。④つま先から上に向かって順番にベルトを留めていきます。

プラスチックタイプも同様の手順で履いていきます。



しっかり履いたとしても筋肉の緊張や変形、装着の時間によって足に赤みができることがあります。装具の脱ぎ履きの時間に赤みがないか確認する習慣を作りましょう。またつま先が当たっているなどサイズが小さいと感じた場合は、保護者や補装具作製機関に相談しましょう。

（理学療法士 本杉）

